

かながわ人生100歳時代ネットワーク

Withコロナ時代における

「この指とまれプロジェクト」

「シニアのいきがいと地域プロモーションを両立する
神奈川県 における Sail 活用提案」

「株式会社Helte（ヘルテ）」

① 団体概要

分断のない活力のある社会をつくる Create the convivial society over division

分断のない活力のある社会に必要なこと、それは、差異を尊重し認め合う関係性

分断は差異(特に文化的差異)を許容できないところからはじまる。(世界は分断を“活用”してこれまで”成長してきたが、それは既に破綻し、新たな価値観の実体化が必要)

様々な“差異”があるが、Sail では、国籍、年齢、言語、文化の差異に着目する

国籍、年齢、言語の差異を超え、異文化を学び合う(相手の想いや文化を知ることによって分断にみえていたものが消失する)

文化は国ではなく場所(地域)、そしてその場所にいる人に紐づき、言語は文化に紐づく

“文化”はその場所固有に紐づくものであり、文化を知ることによってその場所を知ることによって、それはその場所にいる人の想いや経験知に宿る、そして言語は文化に紐づく

差異を尊重し認め合う関係性を築くには、経験知の交換、が有用(形式知ではなく、経験知)

差異を尊重し認め合うには“本音”で話すことが必要であり、それは個々人の“生”の経験を語ることで実現できる

密度の高い経験知の交換は1:1かつセレンディピティの出会いでしかできない

希薄なコミュニケーションが充満する世界だからこそ濃密なコミュニケーションに価値があり、それは1:1かつセレンディピティの経験知の交換が基盤になる

Sail の“シニア”は、豊かな経験知をもつ成熟した日本のオトナ

その場所の文化を伝えることができるのは、豊かな経験知をもった成熟なオトナ、である

Sail の提供する価値は、学び合いのループが発生する国際交流プラットフォーム

Sailのプラットフォームは、どの場所であっても展開できるモデルであり、世界中で展開することで世界を分断のない活力のある社会に変える

① 団体概要

Golden Mark Creation



欧州・欧米で複数の事業を展開。130年の歴史を持つ真珠のジュエリーブランドMajorica Peral代表。社会課題を解決する事業への出資や経営改善に取り組んでおり、米国にある世界最大級のマイクロファイナンス企業Kivaの経営改革に従事。
<https://www.majorica.com/en>

(株) JMDC COO 杉田 玲夢



NTT東日本関東病院、東京大学医学部附属病院での研修を経て、社会的課題に取り組む国内コンサルティング会社に入社。その後デューク大学ビジネススクールにてMBA取得後、ボストンコンサルティンググループ入社。患者によりよい医療をという想いの下、2015年株式会社クリンタル創業。2018年JMDCによる子会社化に伴い、COOに就任。

ブレークスルーパートナーズ (株) 赤羽 雄二



東京大学工学部卒業。小松製作所に入社し、ダンブトラックの設計・開発に携わる。1983年よりスタンフォード大学大学院に留学し、機械工学修士、修士上級課程を修了。1986年にマッキンゼーに入社。マッキンゼーでの14年間で1990年には、マッキンゼーソウルオフィスゼロから立ち上げる。2002年、ブレークスルーパートナーズを共同創業。ベンチャー経営支援、中堅・大企業の経営改革、経営幹部育成、新事業創出に取り組んでいる。著書多数。

ChatWork (株) CEO 山本 正喜



電気通信大学情報工学科卒業。大学在学中に兄と共に、EC studio (現Chatwork株式会社)を2000年に創業。以来、CTOとして多数のサービス開発に携わり、Chatworkを開発。2011年3月にクラウド型ビジネスチャット「Chatwork」の提供開始。2018年6月、当社の代表取締役CEOに就任。

(株) カヤック CEO 柳澤 大輔



1998年、面白法人カヤック設立。鎌倉に本社を置き、ゲームアプリ、各種キャンペーンアプリやWebサイトなどのコンテンツを数多く発信。さまざまなWeb広告賞で審査員をつとめる。ユニークな人事制度やワークスタイルなど新しい会社のスタイルに挑戦中。著書に「鎌倉資本主義」(プレジデント社)、「リビング・シフト面白法人カヤックが考える未来」(KADOKAWA)ほか。まちづくりに興味のある人が集うオンラインサロン主宰。

代表世話人 (株) 杉浦 佳浩



大阪府出身、1963年生まれ。20代の時に2度の転職を経験。現在数十社を超える会社において顧問として、世話人役を務める。紹介のみで、年間約1000名を超える社長と会い続けている。

① 団体概要



日本経済新聞

the japan times



読賣新聞

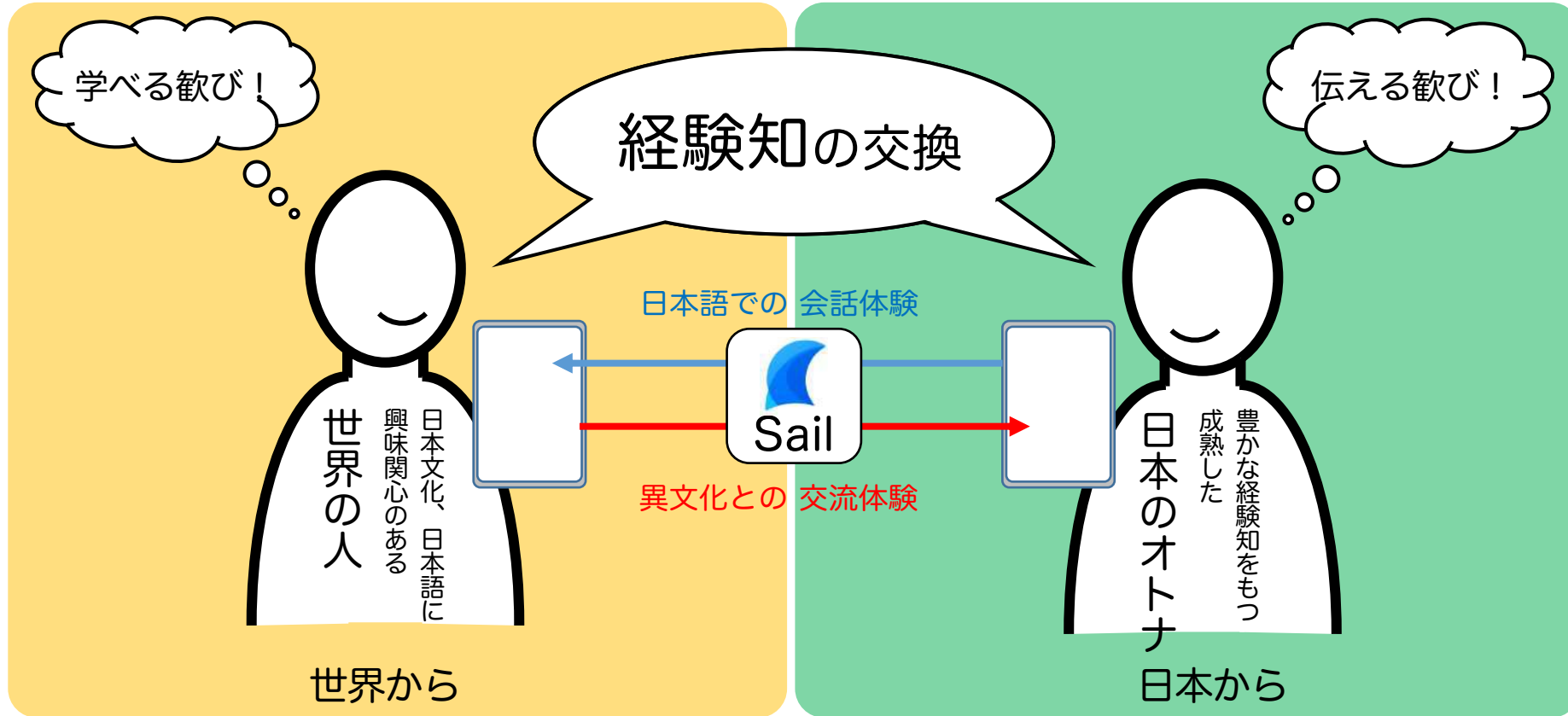


① 団体概要

項目	内容
会社名	株式会社Helte
設立年月日	2016年3月22日
所在地	千葉県柏市東上町2-28 第一水戸屋ビル3F
電話番号	050-3358-6892
資本金	130,181,703円
顧問弁護士	樋口国際法律事務所
業務内容	インターネットサービス「Sail」の運営業務
代表取締役	後藤学
経営陣	社外取締役 Claude Ries 社外取締役 桂小川 社外取締役 赤羽雄二
株主構成	後藤学 Golden Mark Creation 株式会社ウォームライト 株式会社カヤック 赤羽雄二 その他 個人投資家複数名

②事業の概要

シニア層～ミドル層を中心とした日本のオトナと世界中の日本のファン/
日本語を学びたい世界の人々が、オンラインでつながり日本語で会話できる日本語での
グローバルコミュニケーション・アプリ



人々の知的好奇心、知恵を解放する デジタルプラットフォーム

②事業の概要

世界の若者も交えての交流会等のリアルイベントを開催する

Sail交流会

オトナ同士の交流をプロデュース・オトナのコミュニティ化



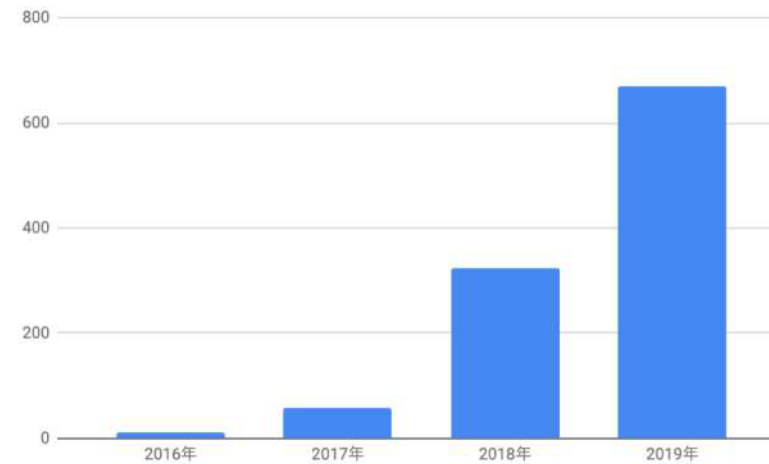
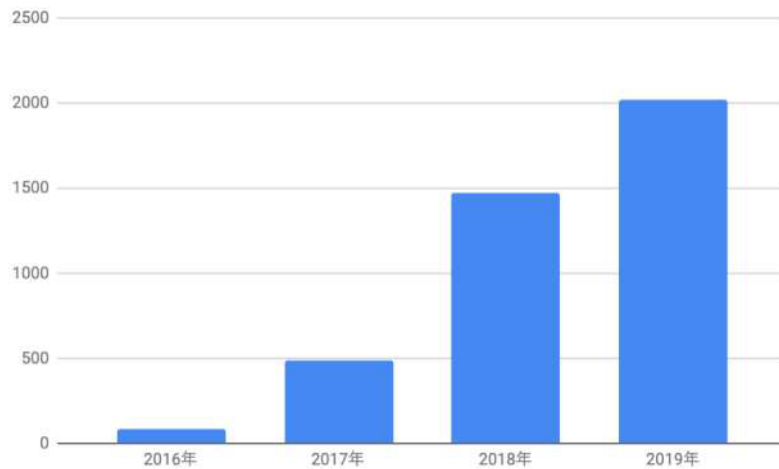
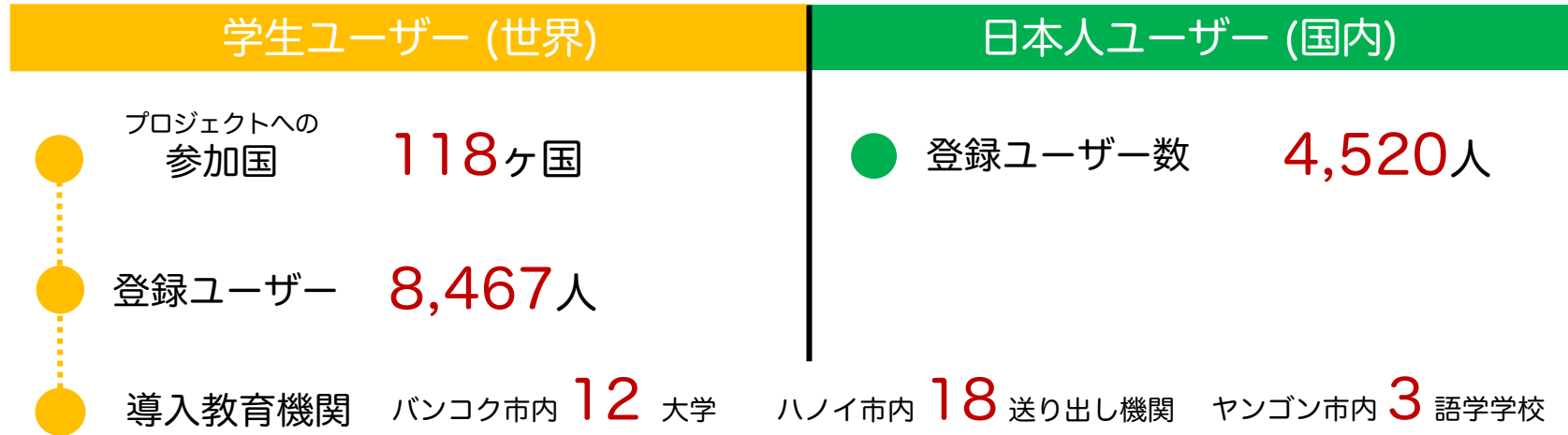
自然発生する生の交流

世界のユーザーが訪問・対面でのコミュニケーション



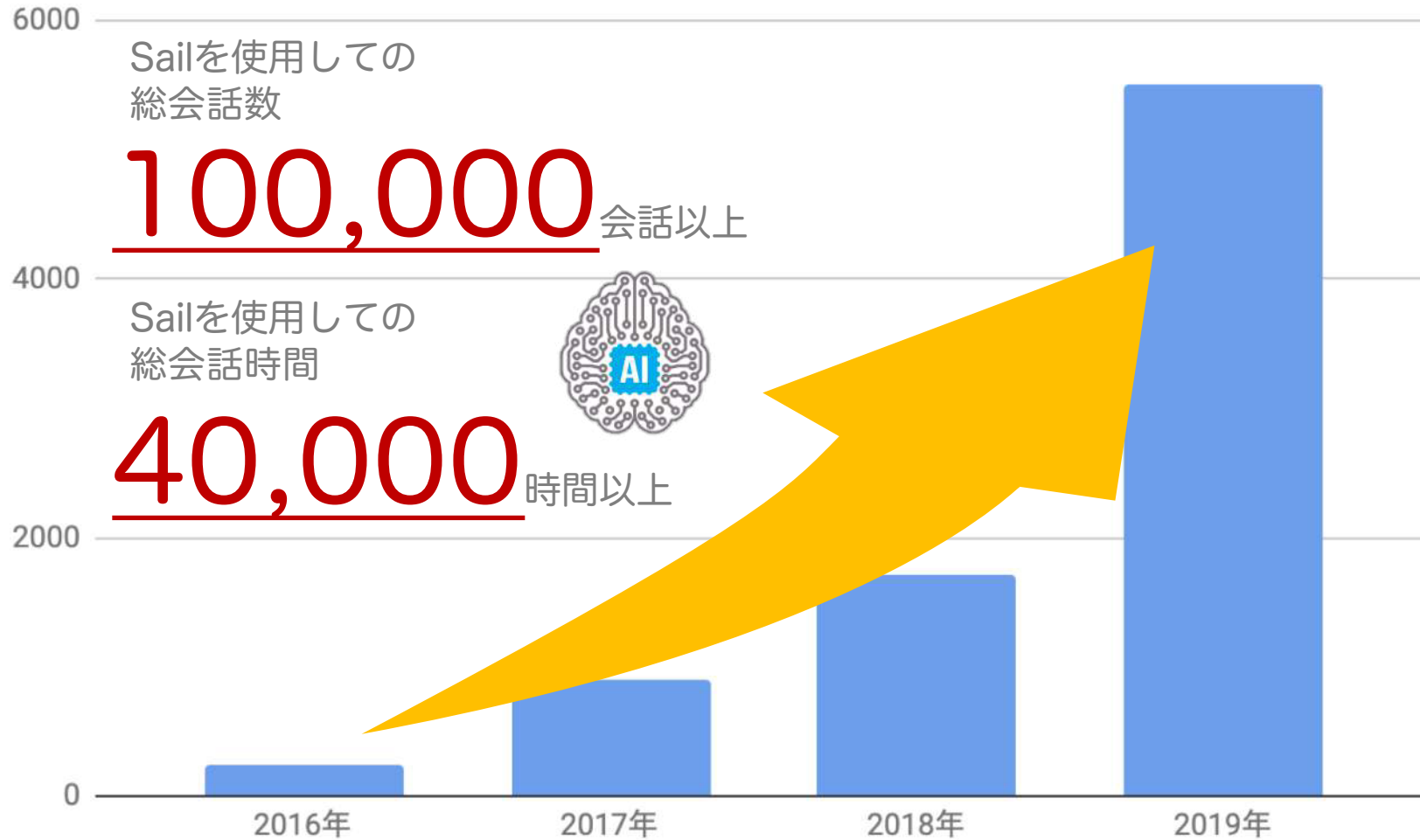
②事業の概要

個人ユーザーは自然流入のみで増加を続けている



②事業の概要

会話数も順調に推移しており、かつ2018年～2019年は一気に増加した



②事業の概要

- ・ 経費

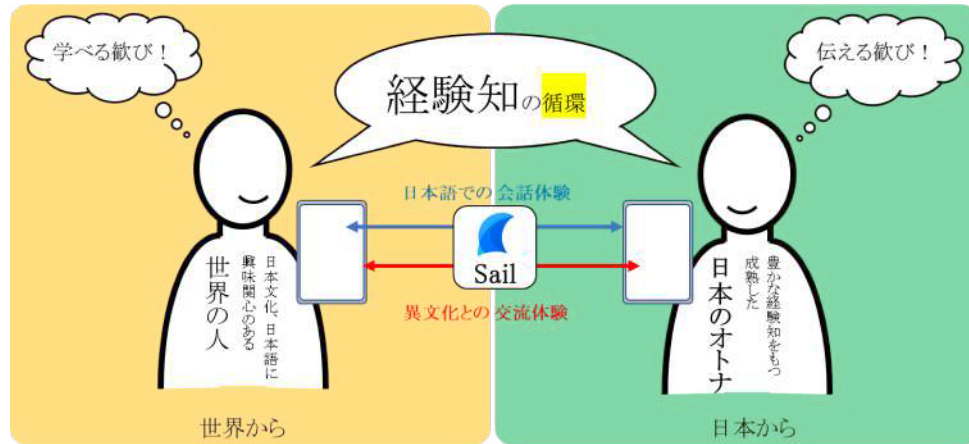
ライター/1記事： 15,000～20,000円（文字数によって変動/1記事3,000文字前後）

カメラマン/1記事： 20,000円（10カット）

人件費（Helte専属マネージャースタッフ1名）： 250,000円/月

③事業に期待する効果

Sailによる異文化交流（社会参加、いきがい付与）



リアルな国際交流（インバウンド）



オフライン交流会（孤立からの脱却）



オンライン交流会（ITリテラシーの向上）

③事業に期待する効果

2020年代の日本社会が抱える課題

- ◆ シニア健康の維持、向上
 - 社会参加機会の減少
 - 介護費の抑制（15～40%）、独居課題の緩和
- ◆ 労働人口の底上げ
 - 高齢化社会
 - 外国人労働者の雇用促進、外国人居住者へ“安心”の提供
- ◆ 持続的自律的な地方創生アクション
 - 観光産業の再構築
 - 関係人口の増加、シニア健康/労働人口課題の解消

コロナで課題感は加速しており、解決基盤の再構成が必要不可欠

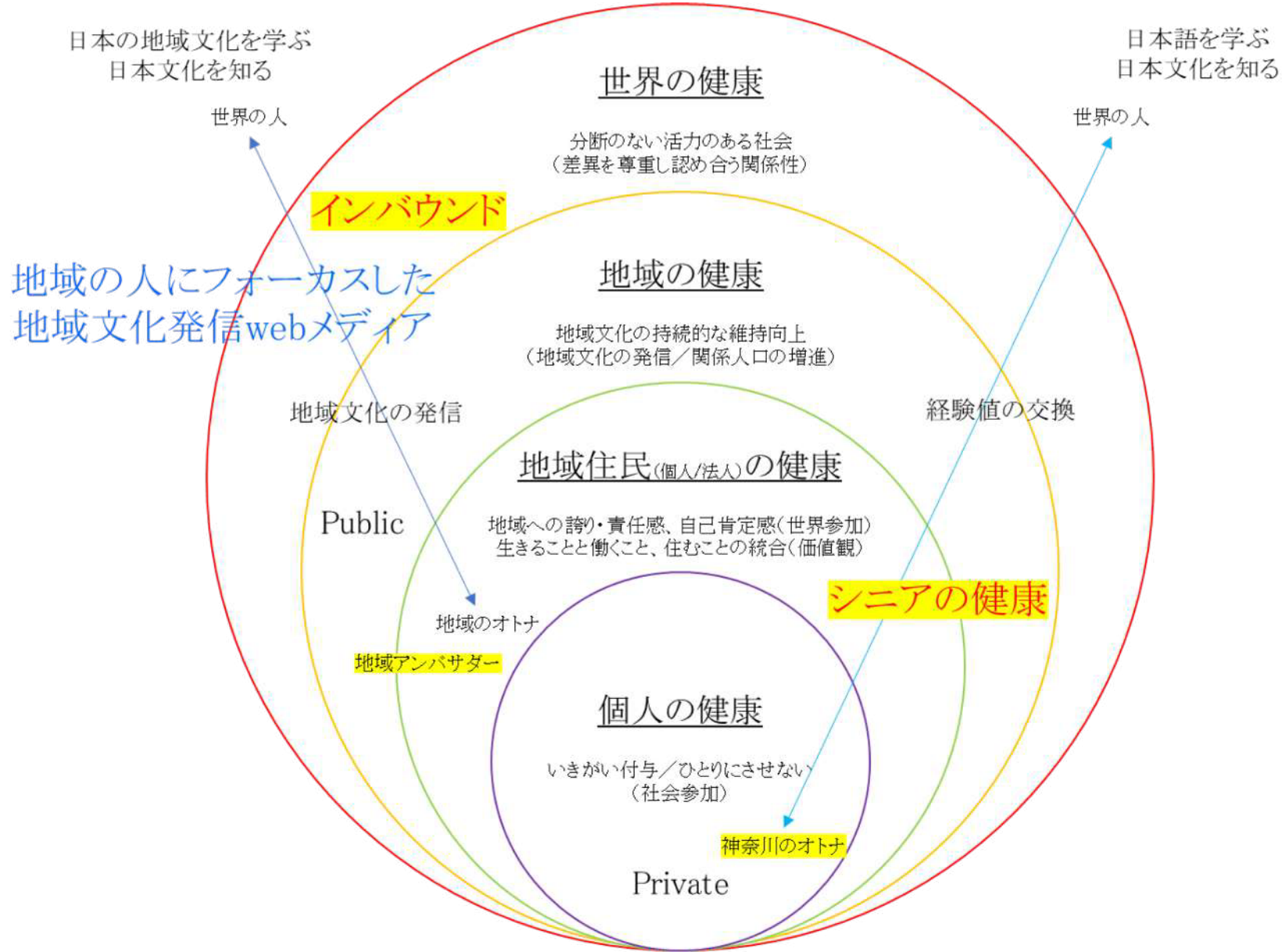
学びあいの異文化交流プラットフォーム



Sail は、社会課題をワンストップで解決するプラットフォーム

- ◆ シニア健康の維持、向上
 - 学びあいの異文化交流で知的な好奇心が刺激され、いきがいも得られる
 - オンライン、オフライン交流会で仲間ができる
 - **ITリテラシーの向上につながる**
- ◆ 労働人口の底上げ
 - 生の日本語を学ぶことができる
 - 日本の文化、慣習を知ることができ、働きやすく、住みやすくなる
 - 外国人労働者にまつわる諸課題の解決につながる
- ◆ **持続的自律的な地方創生アクション**
 - **生の地域文化をプロモーションすることができる**
 - **アフターコロナ時代の新しい旅のカタチとなる**（バーチャルツアーとリアルツアーの融合）
 - **地域シニアのいきがいの向上、地域への海外労働者の移住につながる**

③事業に期待する効果



③事業に期待する効果



金子さん (70)
神奈川県 藤沢市

世界へ窓が開かれた

金子さん (70) 神奈川県

今はコロナ禍でお休み中ですが、6年ほど前から神奈川県藤沢市の江の島観光案内所で外国語観光ボランティアをしています。江の島に来られた海外の方に地図をお配りしてご案内をしたり、おすすめの観光スポットをご案内したりします。子供のころに、父の仕事の関係で、3年半ほどニューヨークで暮らした経験があり、英語は話せるんです。

江の島にはさまざまな国の方がお見えになります。ただ、こーしてガイドするというより、道案内など二言三言の会話が終わってしまうことが多いです。遠くの国からせっかくいらしていただいた方々と、もっとお話できたらいいな、いつも思っていました。

そんな時、オリンピック・パラリンピックボランティアの登録をしていた地元藤沢市からSailのご案内をいただきました。海外の若者と自宅にいてお話できるなんて楽しそう。と昨年9月の説明会に参加して早速登録しました。苦手なパソコン操作にも乗り遅れちゃいけないと思い、この機会にオンラインの交流に挑戦してみようと思ったんです。

最初の会話のお相手は、介護職を目指して日本語を勉強しているミャンマーの女性でした。私は8年ほど前に観光でミャンマーに行ったことがありました。金ぴかの寺院が街のあちこちあって、人々の生活の中に祈りが根付いているんだなあと感じたことや、ミャンマーの料理モヒンガーとビールがとてもおいしかったことなどを夢中でお話しました。話しているうちに自然豊かなミャンマーの土の香りと空気が部屋に入ってきたように感じて、まるでまたミャンマーにいるような不思議な気分になりました。



ミャンマー・ヤンゴン市内の寺院「バナン・コン」の境内で、2011.3月、スタートより9年もの間は観光客のボランティア



ピアノ教師をしていたこともあって、メキシコの女性とお話した時は、音楽の話で盛り上がりました。私がニューヨークの小学校に通っていた頃に覚えたメキシコ民謡の「シェルト・リンド」を一緒に歌ったり、メキシコでは舞ダンスが大好きで、「結婚式ではみんな夜通し踊るんですよ」と聞いて、へー楽しそうと驚いたり。会話を何十年前の記憶がよみがえったり、新しい発見があったり、とても楽しいです。

ベトナムの方とお話した時は、旅行で現地に行った際、ひっそりなしにバイクや車が行き交っていて道路を横断するのがこわかったことを思い出し、事故はないんですかと聞いたら、「ありますよ。でもいちいち警察人が呼ばないし自分たちで解決しちゃいます。壊れた車もだいたい自分で修理します」と言われて、びっくりしました(笑)。

自然体の出合いが楽しみ

平日の夜と週末の午後、週に3回ほど会話の予約を入れます。いろいろな方との出合いがとても楽しみです。海外に旅行したこともありますが、現地の方とはちょっとしたやりとりはあっても、お話できる機会というのは意外にないものです。まして自宅にうかがって話しするなんて考えられません。でもSailして、それがオンラインで自宅からできてしまうんですから素敵なことですね。

会話の相手が決まりその方の国のことを、地図を広げて調べていると、その国を旅行しているような気分になってきます。相手の方に今の季節なら日本のこんな行事について話してみようと思えば、うろ覚えのことを調べ直して確認したり、どう話したらうまくお伝えできるか考えたり。sailを始めてから日々の生活の中にそんな視点が生まれ、自分もとても勉強になっています。

コロナ禍でいろいろな活動ができなくなりさびしく思っていました。sailに出会って、これまで閉じていた窓が世界に向かって開かれたように感じています。遠い国々の皆さんなのに、会話しているとまるで近くいらっしやる方のように親しみがわいてきま



金子さん (49)
神奈川県 藤沢市

SAILで自分にスイッチ

金子さん (49) 神奈川県

次はこの国のどんな人？と想像しながらSailの会話予約を入れるのがとても楽しみです。

息は介護施設で働いています。会話の予約は平日の夜、週に3、4回は入れています。夫は海外に単身赴任中、子供たちは大学生と高校生でそれぞれ毎日忙しく、夜ぼっかり空く時間が私のSailタイムです。予約を入れた日は、さあ今日はどんなお話をしようかと、メモを用意して自分にスイッチが入ります。

地元藤沢市の案内でSailを知り、昨年9月からはじめました。わが家は夫の仕事が海外、義理の姉はアメリカ人、2人の子供たちも小さい頃から英語劇を学んだり、外国が身近にありました。オーストラリアの高校生をホームステイで受け入れたら=写真=してきましたので、日本語を学ぶ海外の若い人たちのお役にたてたらと、登録しました。

会話の相手は、Sailがなければ絶対会うことも話すこともなかった皆さん。行ったこともない国のそんな方たちと話せるんですから、すごく楽しみです。初めて会ったはずなのに、なぜかいきなり笑顔で話せるどころも、Sailの不思議なところですね。



ホームステイにやってきたオーストラリアの高校生と近くの海岸で

日本に来て介護職で働く予定のミャンマーの女性と話したこともあります。やはり言葉に不安がある様子でした。私自身介護の仕事をしているので、笑顔さえ忘れなければ大丈夫よって励ましました。

介護の資格を取るにはさまざまな専門用語も覚える必要があります。お年寄りには、ごく一部ですが外国の人に偏見を持っている方も中にはいます。それを考えると、日本に来ていやな思いをされたりしないか少し心配です。でも現場の人たちはきっと温かく受け入れてくれると思いますし、介護で何より大事なのは会話なんです。Sailで日本のシニアの皆さんと日常会話をするのは、とてもよい勉強になると思います。

話していると、皆さんほんとうに熱心に日本語を勉強しているのがわかります。たどたどしくても一生懸命話しようとする、その頑張りはずいぶん、私も見習わなきゃと思います。子供たちにも、そんな前向きな姿勢を学んでほしいです。

私自身も英語を話せるようになりたいので、英語圏の人たちとずっと話せたらいいなと思っています。私は英語を、相手の方は日本語を、Sailで互いに学び合えたら楽しいですね。



③事業に期待する効果

“シニアのいきがいと地域プロモーションを両立”

Create the convivial society “KANAGAWA” by Sail

藤沢モデルのブラッシュアップ

- ・オンラインコミュニティの醸成を推進し、シニアの社会参加を促し、孤独/孤立を解消する

ウェビナーを活用したITリテラシーの向上

- ・Sail をフックにシニアのITリテラシーを向上させる

神奈川県が多様な地域ごとのプロモーションの実践

- ・神奈川県の特徴ある地域文化をシニアによる地域アンバサダーを通じて世界に発信し、関係人口を増やす

日本初のモデルとして実践

④連携を期待するリソース

- Sailでの交流にご参加いただけるユーザーの確保
地方創生やインバウンド施策、地域発信に関心のある
 1. 自治体さま
 2. 企業さま
 3. NPOさまとのコラボレーションを実施。

地域を発信することでの新たな事業をご検討されている団体さまとの協業を行うことでwithコロナ時代の新たなビジネス展開を共同で実施。

⑤事業のスケジュール

- 7月 コラボレーションにご関心のある団体さまとの調整
- 8月 Sailのアカウント発行、Sailでの交流スタート
- 9月 ユーザーの記事作成開始

⑥最後に一言

分断のない活力のある社会をつくる Create the convivial society over division

分断のない活力のある社会に必要なこと、それは、差異を尊重し認め合う関係性

分断は差異(特に文化的差異)を許容できないところからはじまる。(世界は分断を“活用”してこれまで”成長してきたが、それは既に破綻し、新たな価値観の実体化が必要)

様々な“差異”があるが、Sail では、国籍、年齢、言語、文化の差異に着目する

国籍、年齢、言語の差異を超え、異文化を学び合う(相手の想いや文化を知ることによって分断にみえていたものが消失する)

文化は国ではなく場所(地域)、そしてその場所にいる人に紐づき、言語は文化に紐づく

“文化”はその場所固有に紐づくものであり、文化を知ることによってその場所を知ること、それはその場所にいる人の想いや経験知に宿る、そして言語は文化に紐づく

差異を尊重し認め合う関係性を築くには、経験知の交換、が有用(形式知ではなく、経験知)

差異を尊重し認め合うには“本音”で話すことが必要であり、それは個々人の“生”の経験を語ることで実現できる

密度の高い経験知の交換は1:1かつセレンディピティの出会いでしかできない

希薄なコミュニケーションが充満する世界だからこそ濃密なコミュニケーションに価値があり、それは1:1かつセレンディピティの経験知の交換が基盤になる

Sail の“シニア”は、豊かな経験知をもつ成熟した日本のオトナ

その場所の文化を伝えることができるのは、豊かな経験知をもった成熟なオトナ、である

Sail の提供する価値は、学び合いのループが発生する国際交流プラットフォーム

Sailのプラットフォームは、どの場所であっても展開できるモデルであり、世界中で展開することで世界を分断のない活力のある社会に変える